平成２９年度第１回川崎市地域自立支援協議会全体会議議事録

１　開催日時　平成２９年５月２６日（金）１３時３０分～１６時３０分

２　開催場所　高津区役所５階第１・２会議室

３　出席者　別紙出欠名簿のとおり

４　議題　別紙次第のとおり（すべて公開）

５　傍聴者　２人

６　発言要旨

（１）開会あいさつ

行實先生　本日は、足元の悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。昨年度から自立支援協議会に２年間携わってきました。今までは行政がトップダウンでやっていました。しかし、今年度は地域のみんなで一緒に考えていく協働の流れが自立支援協議会には大切だと感じています。行政だけが考えていく流れではなく、ＳＷＯＴ分析など今年度何をしていくのか、現在自分たちは何ができていないのか各区や市の自立支援協議会の目標を明確にしていく姿勢が大切です。障害福祉分野は過渡期であり、様々な意見を取り入れるためには効率的ではないこともやっていくことが必要だと思います。みなさんからの様々な意見を求めていますので、よろしくお願いします。

（２）専門部会について

精神障害者地域移行支援定着支援部会【資料２―１】

事務局　資料２－１とアンケート結果に基づいて、支援部会の活動内容を説明。

大窪委員　知りうる限りでかまわないが、ピアサポーター方が地域支援に関わってどのような感想を持ってやっているのか聞きたい。

事務局　実際にピアサポーターの方、昨年も事業説明会に参加してくださったピアサポーターの方もいるのだが、自分にとっても活躍の場というふうにとらえている。しっかり原稿もつくってくださり、私たちにこれでいいですかと聞きに来てくれる。実際私たちの言葉で今現在入院の方にお伝えするよりも、ピアサポーターの方が自分の体験を語ってくれることで、自分も地域に出られるかなと考えるきっかけになっている。今後もピアサポーターの方とどういうふうに協働していくか、活躍の場としてぜひ進めていきたいと思っている。ピアサポーターの方のフォローも必要だなと考えており、その点がいま大きな課題にもなっている。

土屋委員　資料２－１の７ページの社会資源チームの支援課題についてだが、地域の受け入れ先が少ないことについて、不動産屋に取り組みを協力してもらうことはすごくいいことだと思う。ぜひそういうところから理解が進めばいいと思う。以前失敗していて受けたくない不動産屋には、なかなか説明しても聞いてもらえないこと

がある。うまくいっているところから紹介してもらうほうがいいだろう。去年話があったかもしれないのだが、資料２－１の３ページの退院可能な患者さん１６０人の中で、専門部会で共有された２項目のＳＯＳがだせるとは具体的にどういうことか、電話ができるということか。

事務局　ＳＯＳがだせるというのは、自分が困ったときに声を上げられる、電話などで普段通っている通所先のワーカーに相談できるという意味。病院から出る前にそれができるようにならないと地域に出た際、結局病院に戻ってしまう人が多いため、退院する前にＳＯＳを自分から出すことを課題にしている。

行實先生　事例に即した勉強会開催などの話があったと思うが、相談支援の事業所のところでもやはり精神障害はわかりにくいため、受け入れてもらいにくい。そのあたりをどうやっていくのか。退院支援という形で出してはいいものの、誰も相談に乗ってくれないというところでは相談できる先を増やし広げていってほしい。

相談支援部会【資料２－２】

事務局　資料に基づいて部会の活動内容を説明。

西巻委員　まだ活動がこれからということで課題整理にも関係するかもしれないが、各区に児童委員会があるのに児童の部分がみえてこない。相談支援の中での児童が見えてこない。ぜひ活動の中では、支援員が足りないとかセルフプランが多いというのも児童を含めてのことだと思うが、せっかく各区がこういう取り組みがあるのでそことの相談支援との関わりというのをぜひ考えていただきたい。

自分がいる場所は指定の事業所だが、なぜ増やせないのかについては給付の問題を言い尽くしているのでそれ以上言わない。しかし、もう少し親切にしていただきたいなと思う時がときどきある。例えば、ガイドブックはいいが初めのころに配られた相談支援マニュアルとか区役所の方が持っている政府の運用マニュアルは初めの年の平成２４年度にもらったきり、新しいものをもらえていない。実際の運用のところでは窓口が変わっており、特に児童は地域みまもりができ、いつもどおり障害に計画を持っていったら、ここではないといわれた。そういうことも事前の周知が全くなくて、指定の事業所もいろんなことを事前に教えてもらうともうちょっと動きやすいと思う。受給者証も毎回言わないとなかなか送ってもらえない。計画書を作るときにもっとスムーズにしたいのだが、そのやりとりだけで時間を費やすこともある。委託とは違う悩みかもしれないが、そういったところを考慮してほしい。

事務局　ガイドブックは改訂していく。お話の中にあった双方支援のマニュアル等々はたまたまですが多摩区で配られているが、基本外には出さない情報。委託のほうにはそういったものが配られているので各区の指定事業所の情報提供をすすめ、相談支援部会のほうで何か情報提供する仕組み作れるのであればそういったことも考えていく。

美和委員　当事者家族のものだが、話を聞いて驚いた。もっと制度の部分は相談にいけばそこできちんと把握されているのだと思っていたため、ショックを受けている。私たち家族としては、将来のことがどうしても心配。相談に行ったら、何ができるか示してほしいし、それは基本中の基本だと思うので、その辺はよろしくお願いしたい。相談支援部会とは違うかもしれないのだが、仲間と話しているときにうちの相談員はすごくいい方だという話があって、どういうことなのか聞くと病院にまでついてきてもらったという。その話は私からするとおかしいと思い、それはヘルパーの仕事だと思うし、たぶんヘルパーさんがいなくて見つからなくてその方がしょうがなくという言い方は悪いが、付き添ってくれたのだと思う。優しい人だが当たり前に思ってはいけないと伝えた。仲間はそこがいいからみんな行けばいいというが、そんなことをしたらすぐ潰れてしまうと思う。もっとヘルパーを増やす方向で考えなければならないと思う。親切でやってくれるのだが、利用者のほうにも理解を促したほうが良いと思う。相談支援専門員の人にもやりやすくなると思う。

事務局　たぶんヘルパーさんが見つからないときに、その方がやむを得ず対応したと思われる。必要な時には職員が同行することもあるが、病院の付き添いは基本的にヘルパーの仕事であり、通院動向など今後調べ対応していく。

大場委員　計画相談の件数などにとらわれがちだが、相談する側にとってどうかを考え聞いたうえで受けきれなくても、次のところにつなげるなど寄り添っていってほしい。その点は、委託と区で検証していってほしい。また、委託と指定特定とで入ってくる情報量に差があると感じている。相談に来た人へ的確に返せないとトラブルになるので、出せない情報があるのもわかるが、指定特定の方のバックアップをもっと気軽にできるよう連携を図り体制構築をお願いしたい。

行實先生　昨年度ＳＷＯＴ分析の中でも情報をちゃんと整理しないと大切な情報がみなさんに届いていないということがあった。そのあたりも、きちんと整理していけば委託と指定特定の情報量の差がないようにどうしていくのか考えられていくと思う。そのあたりは相談支援部会で整理していってほしい。自分の専門性や連携は人材育成部会との問題にもなってくる。相談支援と人材育成連携をとりながら行っていってほしい。

人材育成部会【資料２－３】

事務局　資料に基づいて部会について説明。

大窪委員　質の向上について、自分でも調べたがわからない聞きたいことがあったので、ある相談支援事業所の相談員の方に夜間に相談した。しかし、それについてはわかりません。と言い切られてしまった。正直だとは思うがわかりませんと言われるとそこで終わってしまう。わからないならわからないなりに、ほかの職員と連携し調べてから連絡してほしかった。このことをきっかけにそこの相談支援事業所だけではなく、相談先は複数あったほうがいいと思い、３か所登録した。

事務局　　非常に耳が痛い意見であり、やはり質の向上ということで考えていく。それ以前の話かと思うが、相談支援センターは相談をワンストップで受け止める場所ということを改めて考えたい。相談支援事業所としてどういうところが重要かマニュアルをもとに改めて確認・検証をしていく。部会とは別にやっていこうと思う。改めて相談支援センターの姿勢を問い正したい。

大場委員　　相談支援従事者とはどこまでを範囲としているのか議論があった。相談支援専門員だけなのか、施設福祉提供サービスも含めて従事者というのかというところで川崎市としては、従事者は施設福祉提供サービスも含めて考えようとしていた。人材育成で相談支援の質の向上として考えた時に、たしかに相談支援事業所も頑張らなくてはいけないと思うが、身近にご本人が使われているサービス提供先の方も相談のときに寄り添ってほしいと思う。この部会でできるのかはわからないのだが、そのあたりの質の向上も考えてほしい。

西巻委員　　大窪委員が話した内容と同じ話が、つい先日相談者のご家族からあった。区役所の障害者支援の窓口で新人だと思うのだが、自分のケースの進捗を見ながら、わかりませんと言いそこから一歩も進めなかった。窓口を含めての質の向上も考えてほしい。

田口委員　　人材育成ということで、実際研修とＯＪＴを現状の相談員の人数体制でできるのだろうか。人数の増員などの検討や意見を出していってほしい。一年間現場にいて思ったことなのだが、どうだろうか。

事務局　　人材育成を推進していくうえで、ＯＪＴや支援者支援で支え合う体制をつくっていきたい。

行實先生　　人材育成は大切でいろいろなところと関わってくるので、整理するのが大変だと思う。相談がどういうことなのかという理念だけでなく実際どうするのかということに関しても一緒にいろんな人たちに伝えていけるような形で検討していただけたらと思う。

（３）ワーキングについて

課題整理ワーキング【資料３－１】

事務局　　資料に基づいて活動内容を報告。

日野委員　　課題の件に関しては書式が当事者やご家族の方がよりわかりやすく整理されていることがわかった。支援の関係者であれば多少時間がかかることは把握できるが、当事者とか困っている人たちが課題を提出した場合に、どのくらい検討してもらえるのかとか、進捗はどうかというところを伝えられるのだろうか。

事務局　　構成員の方なら協議会に参加しているので進捗状況はすぐわかる。そのほかの方が出された場合、確かにそういう思いがある。そのことについてワーキングで議論していないので貴重な意見だと思う。きちんと状況がわかることは大切なことだと思うので、その点をふまえて改めて検討していく。

災害ワーキング【資料３－２】

土屋委員　中原区の防災訓練があり、二次避難所（より難しい人、高齢者や障害をもつ方）の開設など行った。ボランティアが多く内容を把握していない人が多く、名簿を作ってほしい。

美和委員　災害時要援護者の名簿など運用が地区によって異なる。終着点を考えてほしい。登録していても誰も訪ねてこないという人もいるし、反対に地域の方が災害時にはしっかり支援するというところもある。ただ登録してくださいと言っても、その先のことがわからなければ、とてもじゃないがこちらとしては出せない。もし登録しろというのなら最後まで責任をもってほしい。どういう風な体制で支援が行われるのか、地域はこういう支援をやっていますよとか、そういうことを説明してもらいたい。この制度はすごくいい制度なので、個人的にはうまくいくように望んでいる。しかし、住んでいる地域によってバラバラなので、ぜひその辺もしっかり確かめたうえで進めていただきたい。

事務局　確かに地域によって、バラバラである。この制度があること自体知らない人もいるので、情報提供の方法を考えていきたい。この制度があることで少し安心する方もいると思うので、制度運用の部分はこれから検討していきたい。

美和委員　４月１日から安全確認の名簿に知的障害者が加わることになったという説明を聞いた。その中に相談支援センターは関わっていくのか。誰が確認をしてくれるのかというところまで、まだ決まっていないようなのだが。相談支援センターの方ではどうなっているのか。

行實委員　まだそこまで動いていないのだと思う。決まっているだけで、やりましょうと言っただけで、これからなのだと思う。同じ市内なのに、区で全く違うというのはやはり住民にとっては不安になってくるところだと思うので、そのあたりもふまえてどういう風に川崎市全体で悪い方ではなくいい方に統一していくのか、そのためにはどうしたらいいのか今後の課題として考えてもらいたい。

美和委員　相談支援センターに登録している人はごく一部だと思うので、それ以外のところに相談している人もいろいろな制度を利用しながら、災害時にどうできるのか各事業所でどう動くのかそこまで詰めて検討してほしい。

（４）各区自立支援協議会の報告

≪川崎区≫【資料４－１】

大窪委員　多分野とつながるとあるが、想定しているところはどこか。

事務局　他分野については福祉に関わらず、医療や教育も含んでおり今のところは福祉・医療・教育の３分野を考えている。

土屋委員　つながるということで、いろいろなところに関わりを持っていくのは良いと思った。３６ページの定例会の中で、課題抽出を主目的としないフリートークとあるが、どのように行っているのか。司会者がいないのか、小グループにわけるなど具体的にどんな感じなのか。

事務局　昨年度はグループワークで意見交換会を行った。今年度も昨年度同様グループワークでいくつかのグループに分け、普段困っていると感じることをもとにざっく

ばらんに共通項を探したい。あえて課題抽出を全面に出すというよりも日頃のお話をどんどん聞こうということで、グループワークを想定している。

土屋委員　仲がいい人とは話すが、なかなかほかの人と話す機会が少なく難しいので、そういう機会は良いと思う。

≪幸区≫【資料４－２】

田口委員　去年も協議があったのだが、父親が子育てに携わる機会だというので、去年から取り組みをされてきた。もしわかればだが、この機会以外で顔を合わせたお父さんたちが何か一緒にしただとか、別の機会に顔がつながって盛り上がったというような話はあるのか。

事務局　盛り上がったというところまでは把握していないが、参加されたお父さん同士で電話番号やメールアドレスは交換していた。NPO 代表がいてその方を中心にこちらで行うイベントなどの情報を提供しているとのこと。適宜連絡はお互いとれる状況である。

≪中原区≫【資料４－３】

行實先生　新しく変わられて、まだまだいろいろな課題があると思いますが、頑張ってください。

≪高津区≫【資料４－４】

西巻委員　みんなの居場所づくり委員会が興味深いと思った。特に、すまいる（当事者定例会）には今何人くらいの方が参加しているのか、地域に集まる場所ではなくいろんな場所が居場所になるのか、今後の具体的なイメージは？

事務局　すぐ数えられないが、まずは名称を決め、毎月必ず定例会として定期的に実施したい。具体的にどう進めていくかはこれから詰めていきたい。

≪宮前区≫【資料４－５】

大窪委員　精神障害者だからではなく、震災時は不安になると思う。東日本大震災のとき薬局にいったが２８日４週間分の薬が、交通事情で入荷していないという状況になった。薬局の方が、医者に相談し似たような作用の薬を代わりに出してもらったが、不安になった。防災の時に協議会のくらし委員会は本当にいい案だと思う。

美和委員　くらし委員会の「移動」グループとは、どういうものか。災害時ではないということでいいか。

事務局　災害時ではなく日常生活の中で出てくる、バスやタクシー移動の使い勝手について全般の課題として考えている。災害時に限らない。

≪多摩区≫【資料４－６】

事務局　資料の訂正で、定例会は７月ではなく６月。

≪麻生区≫【資料４－７】

西巻委員　児童委員会のピアサポーターというのは、保護者か。

事務局　保護者やＯＢなどが研修を受けていただいて、ピアサポーターとしてその方に活動のお手伝いをしていただいている。

田口委員　相談支援委員会で、締め切りが４月のアンケートはどういう形式か。

事務局　　アンケートの項目にご自身で書かれている方はご自身で。そのほかの方は、分けて集計する。
大窪委員　　麻生区の自立支援協議会の中で当事者の方は何人か。
事務局　　今年度は６人だと思われる。増える傾向にある。

（５）第４次かわさきノーマライゼーションプラン改訂版について【資料５－１、５－３】

土屋委員　　今までの活動の中から課題を考えていくのか？それとも新たに考えるのか。
事務局　　計画のために新たに議論する必要はないと思う。３年間で整理してきた課題を抽出していくことを考えている。
行實先生　　私たちの声を届けることが大切。課題はあるがこのように対応しているなど素直に伝えていくことが重要だと思っている。計画は大切だが、計画ありきでは住民の生活が見えづらくなってしまう。意見がある場合はこれからも出していってほしい。今回の資料を読み込み、８月の全体会議で議論を深めていきましょう。

（６）障害者相談支援センターについて【資料６】

事務局　　資料に基づいて報告。

（７）その他

事務局　　全体会議の日程について、次回は８月に臨時で開催予定。

以上